



はじめに

- この配布資料は、令和3年4月、島田市社会教育委員が島田市教育委員会からの諮問「家庭教育の在り方」に対して答申した提言書の中学・高校生編です。全編については本冊をご覧ください。
- 内容は、第1章「子供のライフステージと家庭の役割」と第2章「家庭教育に悩んだ時の『処方箋』」で構成されています。
- 家庭教育のすべてを網羅してはいませんが、大筋は述べていますので、子育てをするお父さん、お母さんの家庭教育における羅針盤としてください。
- 子供とともに成長しませんか！

第1章「子供のライフステージと家庭の役割」構成

乳 幼 児 期～肌を離さない	たくさんの愛情を受け取る場
未就学児期～手を離さない	家族から認められる場
小学生前期～眼を離さない	家族や集団のルールを学ぶ場
小学生後期～眼を離さない	自分の良さを感じ役割を理解する場
中 学 生～心を離さない	社会の一員として責任を自覚する場
高 校 生～心を離さない	大人として将来の自分を考える場

中学生～心を離さない～

- 第2次性徴がはじまり、大人に向けた心身の発達が見られます。
- 思春期とも呼ばれ、この時期には親離れも始まります。
- 親の干渉を嫌ったり、友達関係を優先したりと、行動が変わってくることもあります。
- 現実の自分と理想との落差に焦りや不安を感じ、いら立つようにもなり、これらが「反抗期」として現れることがあります。
- 反抗期は子供の成長しようとしている大切な合図なのです。
- 「心の耳」で話を聴き、子どもの応援団として「心を離さない」でください。

☆家庭は「自立しようとする子どもを支える応援団がいる場」

◇応援団として子どもに接する

- ・ 反抗期を迎えた子どもへの接し方に悩むこともあるでしょう。
- ・ 反抗は「成長の証」として、がっちり受け止めましょう。
- ・ まずは、根掘り葉掘りたずねたりするなど、過干渉は避けましょう。
- ・ でも、そっとし続け過ぎると、「愛情が無くなったのでは？」「構って欲しい」と思いから、気を引くために強く反発することもあります。
- ・ 応援団として、次の3点を心がけましょう。



☆家庭は「自立しようとする子どもを支える応援団がいる場」

◇応援団としての3つの心がけ

- ・ 特別扱いせず、気になることや正すべきことはきちんと話して伝えます。
- ・ 子どもが話し始めたら、心を子どもに向けてしっかり聴いてあげてください。
- ・ 暴言や暴力では親の思いは子どもの心に届きませんから、感情が高まってきたら、より丁寧な言葉でゆっくり話しましょう。



☆家庭は「自立しようとする子どもを支える応援団がいる場」

◇効果的な応援団の言葉の例

○話しかけるきっかけとなる

- ・ 「いつの間にかできるようになったね。大きくなったね」
- ・ 「今日の試合どうだった？」「今日のおかずおいしかった？」
- ・ 「お父さん(お母さん)は〇〇ファンなんだ」
- ・ 「お父さん(お母さん)はこんな洋服を着てみたいけど、どう思う？」

○子どもの気持ちに共感する

- ・ 「嫌な思いをしたんだね」・「たいへんだったね」
- ・ 「そういうことを考えていたんだね」

☆家庭は「自立しようとする子どもを支える応援団がいる場」

◇効果的な応援団の言葉の例

○子どもを褒める

- ・ 「よく我慢したね」「そこまで考えることができたなんて、すごいね！」

○寄り添う

- ・ 「どうしたらいいのかお父さん(お母さん)も一緒に考えてもいい？」
- ・ 「いつでもあなたの味方だよ」「お父さんたちにできることがあったら言ってね」

○自立を促す

- ・ 「あなたはどう思っているの？」「あなたはどうしたいのかな？」

☆家庭は、「社会の一員であることを自覚し自分の言動に責任を持つことを教える場」

◇家族のルールを再確認し、家族みんなで守る

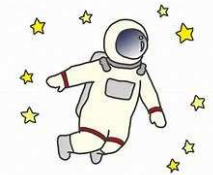
- ・ ルールを守ることは、子どもが自分の言動に責任をもち、大人として自立することです。
- ・ これまでのルールを、今の家庭にあったものに少しずつ変化していきましょう。
- ・ 大切なのは、「どうして守れないのか」「どうしたら守れるのか」など、家族でルールについて話し合うことです。
- ・ 子どもがルールの必要性を理解し、自分自身と向き合う機会となります。
- ・ 話し合うことで、「押し付けられた」という気持ちも減り、ルールの必要性を再確認したり、「主体的に行動しよう」とする子どもの成長にプラスになります。



☆家庭は「自分を見つめ、どのような大人になるか考える場」

◇時にはテレビや新聞のニュース話題を家族で話し合うことも

- ・ 家族・学校という狭い領域から地域や世界という広い社会に視野を向けることができます。
- ・ 自分と世界をつなぎ、「何がしたいのか、どの道に進みたいか」ヒントがあるかもしれません。
- ・ 身近なことで、そこから広がる無限の世界があります。



☆家庭は「自分を見つめ、どのような大人になるか考える場」

◇進路選択は子どもの希望を尊重

- ・ 「良い高校へ」「公立校へ」と、子どもの進路への親の願いは少なくありません。
- ・ 中学の生徒会や部活動の評価は、「そこで何をしたか」が問われます。
- ・ 学力向上は予備校、学習塾に通うだけでなく、地道な努力こそが大切です。
- ・ 高校進学はゴールではなく、人生のひとつのステップとして、子どもの希望や得意分野を伸ばせるよう、親子で何度も確認しながら進路を話し合ってください。



☆家庭は「自分を見つめ、どのような大人になるか考える場」

◇子どもの不安を家族で支える

- ・ 中学では、交友関係など様々な心配事が生まれる可能性があります。
- ・ 部活動を中心とした仲間との交流が増え、これまでの友達と遊べない状況も生まれてきます。
- ・ 子どもたちが、成長の過程で、自分の趣味や感心をもとにした友人選択があるかもしれません。
- ・ これまで仲の良かった友達が離れていくような不安が生じるかもしれません。
- ・ そのような時には、家族で子どもを支えてください。



【コラム】「ありがとう」を大切に

現代社会は、生活環境が急速に変化しています。それが不安の源にもなっています。

内閣府の「令和元年度版子供・若者白書」によると、日本の若者たちは、自分自身に満足できて長所もあると感じる「自己肯定感」が、諸外国に比べ極端に低いそうです。

自分に自信を持ってない状況では、「自分を輝かせて生きる」ことはできません。子どもたちは、人の役に立ったと実感した時や周囲から「ありがとう」と言われたときに、温かな気持ちや自分の存在価値を感じることができます。

また、「ありがとう」と言われたことで、相手を思いやる心を強め、自主的な行動に結びつける子どもも増えています。

さらに、子どもも自ら進んで「ありがとう」と言えるようになることで、自分の存在価値を高めることができます。子どもたちが自己肯定感を高め「輝いて生きる」ためには、日々の暮らしの中に「ありがとう」のこぼれを増やすことが大切です。

高校生～心を離さない～

- ・ 身体的にはほぼ大人ですが、精神的にはまだ揺れています。
- ・ 本当の自分の姿を求め、さまよっている時期でもあります。
- ・ 行動範囲、交友関係も広がり、親の目が届きにくくなります。
- ・ 家庭からの巣立ち目前のこの時期、外の世界に触れさせ、「社会の一員としてどのような貢献ができるのか」考える機会を持ちましょう。
- ・ 聴き上手に徹し、大人への自立まで心を離さないで、しっかり見守りましょう。

☆家庭は「社会の一員としてどのような貢献ができるか考えさせる場」

◇子どもの視野を広げ、興味関心への刺激を

- ・ テレビや新聞のニュースなどから、日本全国や世界各国の出来事・人物など、家族の話題にしてみてもいいですか。
- ・ ニュースには、「卒業後世界を渡り歩いた」「大学生で起業」など、様々な生き方が紹介され、子どもの進路選択に刺激を与えるものもあります。



☆家庭は「社会の一員としてどのような貢献ができるか考えさせる場」

◇ボランティア活動など様々な体験をする機会を

- ・ 自分の地域や海岸などのごみ拾い活動に参加することで、環境問題への関心が高まります。
- ・ 災害復旧支援ボランティアなど、世界中には様々な活動が存在します。
- ・ こうした活動の存在を知ることで、子どもの興味関心が刺激されるでしょう。



☆家庭は、「子どもの主体的な進路決定を支える場」

◇進路選択は子どもの興味、特性を尊重して

- ・ 高校2年生ぐらいから、就職なのか進学なのか、そしてどんな企業へ、どんな大学へと選択を迫られます。
- ・ 自分探しをしている時期に、今後の生き方を左右する大きな問題です。
- ・ 世の中には、高校の時の選択が良かった人もいれば、途中変更して成功したひとなど、様々な人生経験した人たちがいます。
- ・ 現代社会は、価値観の多様化、経済のグローバル化など変化の激しい時代です。
- ・ 子ども自身の興味・関心や特性に応じた選択も大切になってきます。
- ・ ただし、子どもの特性を見据え、親の社会経験に基づいたアドバイスは必要でしょう。



【コラム】聴くことは待つこと

思春期を迎えた子どもの見かけは大きくなって、「別人になった」という感じはしないものです。

しかし、心は大きく変わり、自我に目覚め、自立への一歩を踏み出そうとしている時期です。もはやこれまでの幼かった我が子ではなくなったことを、親は自覚しなくてはならないでしょう。同時に、子どもとの関係を一度見直し、新たに築き上げる心構えが求められます。

子どもとの関係を新たに築き上げることについては、親にできることはあまりありません。子どもの成長を見守っていること、何かあれば必ず相談に乗ること、子どもを信用し支持していることを伝えることなどが精々です。

後は、子どもからの反応が返ってくることを待ちましょう。時折、気がついたことを優しく親が伝えるほかは、待ちましょう。話し合う関係が成立するまで、待ちましょう。その当時の自分を省みながら。

第2章 「家庭教育に悩んだときの『処方箋』」の構成

- ① 新たなメディア(スマホ等)との付き合い方に悩んだら
- ② 叱るとき、手を上げそうになった時は
- ③ 社会情勢が厳しくなる状況での子どもへの接し方
- ④ “いじめ”に悩んだら
- ⑤ “問題行動”や“発達障害”に悩んだら

【処方箋1】 新たなメディア(スマホ等)との付き合い方に悩んだら

- ・ スマホのような“新たなメディア”の問題の中に、**金銭的・性的・心理的被害の可能性**があります
- ・ スマホが社会に登場してから歴史が浅く、**スマホが持つ社会的特性もまだ社会に浸透していないし、利用方法や危険性も十分に認知されていないのが問題です**
- ・ **子どもにスマホを持たせる際**
→子どもとのコミュニケーションを充分取り、**スマホを持つことで生じる利便性、危険性と責任を、親子で十分に話し合いましょう**

【処方箋2】叱るとき、手を上げそうになった時は

- 「子どもは親の絶対的な支配下にあり、全て親の意のままに行動しなければならぬ」と思っていますか？
* 子どもは親の所有物ではなく、一人の独立した人格をもつ存在
- 「親の言うことを聞かない」「親の思ってもいないことをする」と思っても、子どもの立場に立つと、子どもの行動や主張をある程度理解できることもあります
- 子どもを叱りたいとき、手をあげそうになった時は、一呼吸おいて、まずは自分の心を静めましょう
- 子どもが親に何を訴えたいか、一呼吸置くことで、心に浮かぶことも

※現行の「児童虐待防止法」と「児童福祉法」では、「児童のしつけに際して、体罰を加えてはいけません」と明記されています。

【処方箋3】 社会情勢が厳しくなる状況での子どもへの接し方

- 子どもは、親の分身ではなく、子どもには一人一人個性があります
- 子育ての仕方は千差万別、複雑な環境の中で、子どもに教育を施していく必要があり、親が子どもとじっくり向き合うことが必要です
- 親を取り巻く環境はますます悪化している中でも、可能な限り子どもと向き合い、子どもの個性を理解してほしいです

【処方箋4】“いじめ”に悩んだら

- 子どもの変化が“いじめ”によるものならば**放置しておけません**
- **子どもの様子や、食事の様子に気を配り、親が自ら子どもの変化を掴んでいくことが重要です**
- 相談先としては、まずは学校（学級担任、学年主任、生徒指導担当、部活動顧問、管理職の先生やスクールカウンセラーなど、様々な相談相手がいる）
- 子どもの心のケアを含めて島田市の教育センターに相談するのも一つの方法です

【処方箋5】“問題行動”や“発達障害”に悩んだら

- 問題行動、発達障害やその二次障害等々の問題についても、早めに相談し、対応していくことが大切です
- 後になればなるほど解決できない問題になっていきます子どものために相談を
- 相談先としては、まずは学校（学級担任、学年主任、生徒指導担当、部活動顧問、管理職の先生やスクールカウンセラーなど、様々な相談相手がいる）

- ※報告書市公式ホームページ掲載箇所URL
- <https://www.city.shimada.shizuoka.jp/kurashi-docs/shakaikyoikuinkai.html>
- ※報告書市公式ホームページ掲載箇所QRコード
-

